

ひかり野

Saga
University
Library
Bulletin

No.47
July 2023

開館中
OPEN

従来の図書館と電子図書館 館長	1
医学分館長として1年 副館長	2
図書館月間2022	3
多目的学習スペースオープン	4
本館4階貴重書展示スタート	4
図書館ポイントカードおよび学生Web選書	4
中学生の職場体験学習	4
受入資料紹介	5
人事異動	5
図書館統計	6
歴代館長・副館長	10
図書館の運営体制	10
館内マップ、各係の紹介	11
図書館日誌(行事・会議・研修等)	12
貴重書紹介 伝柴田花守筆「楠公像」	



従来の図書館と電子図書館

館長 中里理子

ChatGPTが凄まじい勢いで広まっている。学習していない分野では情報の正確性に欠けるなど、いくつかの大きなデメリットがあるが、いずれ改善されて誰もが使う世の中になるだろう。デジタル化は加速度的に進んでおり、図書館もまたその急流に巻き込まれている。(なお、この原稿はChatGPTではなく執筆者自身が書いている。……という但し書きも今後必要になるかもしれない。)

図書館におけるデジタル化の一つに「電子図書館サービス」がある。電子図書館は紙媒体の書籍ではなく、電子書籍、電子資料を扱うため、利用者と図書館の双方にメリットがある。「日本電子出版協会」HPにある「eBookPedia」*1を見ると、利用者にとっては、図書館に行く必要がないため、いつでもどこでも電子書籍が利用できるし、図書館にとっては、蔵書の保管スペースに悩まされず、本の劣化もなく、貸出しや図書管理の業務が軽減できる、

という利点が挙げられている。大学図書館では、現在、一部分だが電子書籍が利用できる。利用者は自宅でも電車内でも、昼間でも夜中でも書籍を読むことができ、便利である。

では、大学図書館をすべて電子図書館化すべきかという点、それによって失われる点、デメリットがかなり大きいと考える。

電子図書館では得られない従来型の図書館の利点の一つは、あるテーマに関連する図書を、実際に読み比べ、必要な情報はもちろん、予想しなかった情報までも得られることである。電子図書館の場合は、検索する語句の入れ方によって、得られる情報が限られることがあるが、開架式の図書館では、辺りの棚を広く見て回ること、関連する情報が目に入り、新しい視点が得られることがある。自分で情報を見つけるという喜びもある。

よく、紙媒体の新聞の必要性が言われるが、あれと同じである。ネットニュースでは興味のある記事しか読まないが、新聞紙を読むと思いがけない記事が目に入り、広く情報を得ることができる。図書館も同様である。実際に書棚に並んだ本のタイトルを広く見渡すことで、意図しない情報までも手に入る可能性がある。

さらに言えば、大学の図書館は本を借りて読むだけの場所ではない。いくつかの本を並べ、比較し、考える場所でもある。また、学習スペースを利用して仲間たちと議論し、考えを深める場でもある。知識を得ることから一歩進んで、知識をもとに考え、活用することも、図書館の果たす役割の一つである。

当然ながら、大学図書館に電子書籍は必要である。ここでは取り上げなかったが、特に電子ジャーナルは研究上欠かせないものとなっている。だが、電子書籍だけでは図書館の役割は果たせない。書棚にある書籍を自由に閲覧して新しい情報を得ること、書籍をいくつか比較することで考えを深めること、情報をもとに仲間と議論して考えを発展させることなど、図書館というスペースがあって初めてできることがある。

従来型の図書館と電子図書館、双方の利点をバランスよく生かすことで、「知の創造」を支える理想的な図書館となるだろう。

*1 日本電子出版協会「いまさら聞けない電子出版のABC~eBookPedia~」の「電子図書館」の項。(執筆者：柳明生)
https://www.jepa.or.jp/ebookpedia/201703_3486/ (2023年4月11日閲覧)



医学分館長として 1年

副館長 市場 正良

医学分館長として1年を過ごした。これまで気が付かなかった図書館の新たな発見があり、大変うれしい。優秀な職員の皆さんの働きのおかげで、特に館長として困ることはない。これまで何気なく、カウンター越しにお会いしていた方たちが、実は医学書管理のエキスパートであることを知り、改めて感謝したい。彼女らの知識が図書館運営に十分生かされているだろうか。医学教育の現場を知ってもらえれば、もっと学生が図書館を利用するためのアイデアが出てくるかもしれない。

1年前、分館長としての最初の仕事は分館改修後の利用再開であった。改修は前館長の仕事で私は何も知らない。何も知らない分館長として昨年4月に再開の式典に参加した。来賓としてお招きした元医科大学長に久しぶりにお会いできた。旧図書館の開設にご尽力されたことなど、佐賀の地盤の話から色々とお伺いした。改修された図書館について、いくつか尋ねられたがあいまいな答え

しかできなかった。利用再開後は、中断していた新入生向け図書館オリエンテーションも復活し、段々と利用者も増えてきているようだ。机や椅子の配置は従来とは大きく変わったが、利用者の反応はどうだろうか。使いやすいようになったであろうか。利用者アンケートでは、良い評価のようではある。他に、学生達の希望には、開館時間の延長がある。そのためには、無人開館の時間を置くこととなるが、検討中であり、じきに延長されるであろう。

入館者数や貸出数の状況は図書館の評価指標であり、その動向が気になる。現状では、学生の利用状況は知ることができるが、教職員の利用状況はどうだろうか。教員は、利用していると思われるが、職員はどうだろうか。医学部には、附属病院があり、看護職員数も大きな比重を占める。医学書以外も置いてあることは知られているだろうか。職員証で貸し出しができることが知られているだろうか。職員向けの広報の強化が必要であろう。

教員に関しては、電子ジャーナルの価格高騰も悩みである。教育研究の基盤であり、大学として当然準備すべきものであると考える。しかし、大学全体の経費の中で優先順位がどこになるか、様々な考えもあるであろう。利用者にとって価格は安いに越したことはないが、それだけ著作物の価値があるということも考えなければならぬ。

図書館月間では、脱出ゲームも楽しませてもらった。最初は、避難訓練のゲームと勘違いしていた。学生の参加はまだまだ多くなかったが、図書館を知る機会として、次の機会には十分に広報していかなければならない。学生推薦書の書評を展示紹介するイベントも開催されている。図書券が景品なので、参加者数が多かったのかも知れないが、学生も参考書以外に、色々な本を読んでいることを改めて知ることができた。書評はどれもわかりやすい。その中で自分も読んで面白かった本もある。それ以外、いくつか本を借りて読んでみた。なるほどである。また教員による推薦図書展示コーナーも作られた。貸出頻度は増えているようである。今後も続けよう。新たな企画も検討しよう。

図書館月間2022

附属図書館では、読書週間にあわせ毎年10月末から11月末の期間を図書館月間として、各種イベントを開催しています。令和4年度は、令和4年10月27日(木)から11月30日(水)まで「クイズで学べる図書館脱出ゲーム」、「貴重書コレクション小城鍋島文庫展(本館)」を開催しました。

「クイズで学べる図書館脱出ゲーム」は、実際に館内を歩きながらクイズを解き、図書の配架(分類)や、施設設備、資料の探し方(蔵書検索、新聞、文献データベース)などを学べる内容となっており、また、来館しなくても活用できる図書館の機能やサービス(My Library)についても紹介し参加者には概ね好評でした。

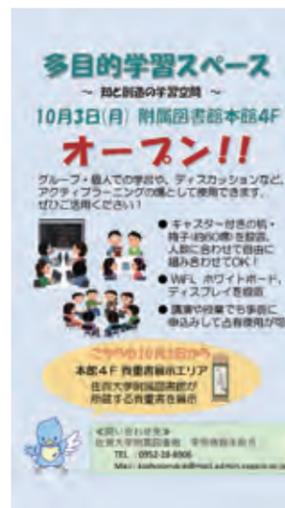
「貴重書コレクション小城鍋島文庫展」は、地域学歴史文化研究センターとの共催で、江戸時代～大正時代にかけての佐賀における疫病と人びととのたたかいについて、附属図書館本館エントランスホールにて貴重書小城鍋島文庫及び関連史料を用いて紹介しました。また、利用制限中の学外の方には図書館ホームページで公開するとともに、産学交流プラザ1階インフォメーションコーナーでも紹介しました。



多目的学習スペースオープン

令和4年10月3日(月)本館4階に新たに多目的学習スペースをオープンしました。グループでの学習やディスカッションなど、アクティブラーニングを実践する場としてさまざまな使い方ができ、予約は不要で自由に利用できます。また、講演や授業の場としても利用可能ですので、その場合は図書館までお申し込みください。

キャスター付きの机、椅子、ホワイトボード、ディスプレイ等の設備を用意し、無線LANも整備しています。



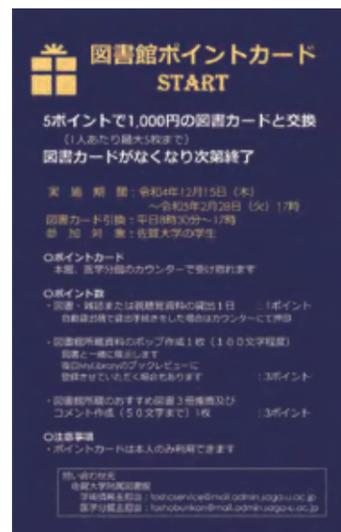
本館4階貴重書展示スタート

多目的学習スペースに隣接して、本学が所蔵する貴重書を展示するエリアを設け展示ケースを設置し、定期的に入れ替えて企画展示を実施しています。



図書館ポイントカードおよび学生Web選書

来館のきっかけづくりとして、図書館の利用に応じたポイントを付与し、そのポイント数により図書カードを配布しました。また、蔵書の充実並びに学生の学修及び研究の支援を図るため、学生Web選書ツアーを行い、学生が希望する図書(電子書籍を含む)を購入しました。



中学生の職場体験学習

地元の中学生在が9月に2日間、職場体験学習のため来館し、図書館業務の体験学習を実施しました。カウンター業務をはじめ、受入から目録、配架までの業務を一つ一つ熱心に取り組んでいました。

受入資料紹介

学生用図書

令和4年度は、以下のとおり図書を購入しました。

教員推薦図書1,235冊、学生希望図書506冊、図書館推薦図書1,528冊、継続購入図書436冊

寄贈図書

- ・(株)中山鉄工所 森本和也
4足歩行ロボ「Spot」徹底解析
- ・高山節也(二松學舎大学名誉教授)
肥前鍋島藩諸文庫漢籍總合目録
- ・西山秀哉(東北大学名誉教授)
プラズマ流動工学
- ・神崎市
神崎市史(全3巻)

(敬称略・順不同)

人事異動

(令和4年4月2日～令和5年4月1日)

異動区分	発令年月日	氏名	異動後	異動前
配置換	4.10.1	高田 勝波	情報図書館課主任 (総務担当)	経理調達課主任 (第三調達(センター)・物品 検収担当)
配置換	5.4.1	浅岡 宏信	芸術地域デザイン学部 事務長	情報図書館課長
採用(転入)	5.4.1	別府 妙子	情報図書館課長	九州大学附属図書館 収書整理課 雑誌情報係長
配置換	5.4.1	西畑 陽一	情報図書館課主任 (学術情報担当)	研究推進課主任 (研究企画担当)
配置換	5.4.1	大久保 里香	情報図書館課事務員 (学術情報担当)	学務部教務課事務員 (教育学部教務担当)
配置換	5.4.1	松尾 梨花	情報図書館課事務員 (医学分館担当)	医学部経営管理課事務員 (総務担当)

図書館統計

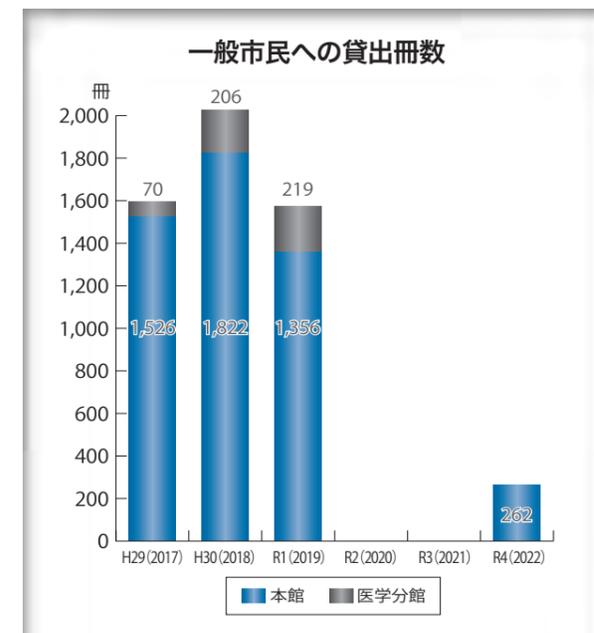
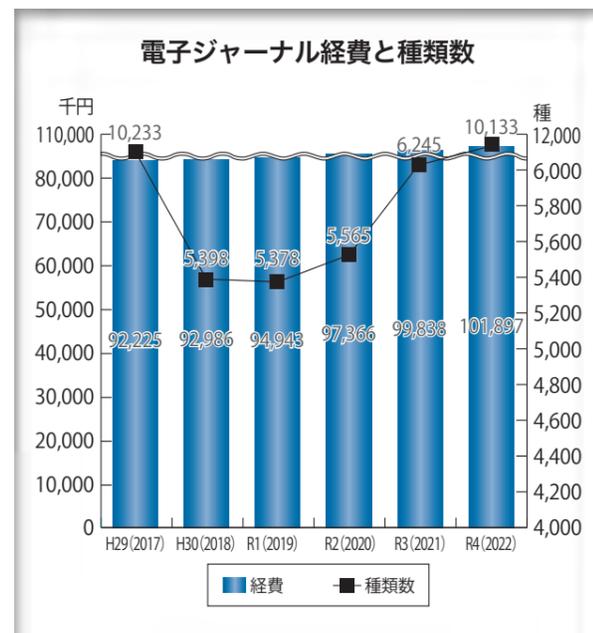
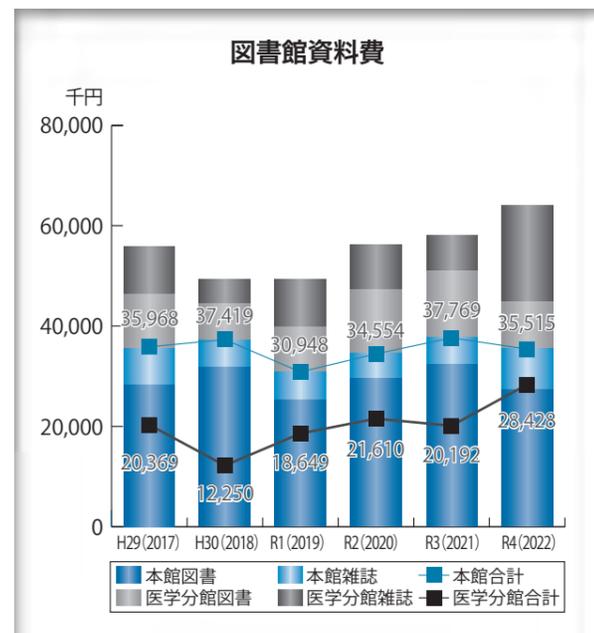
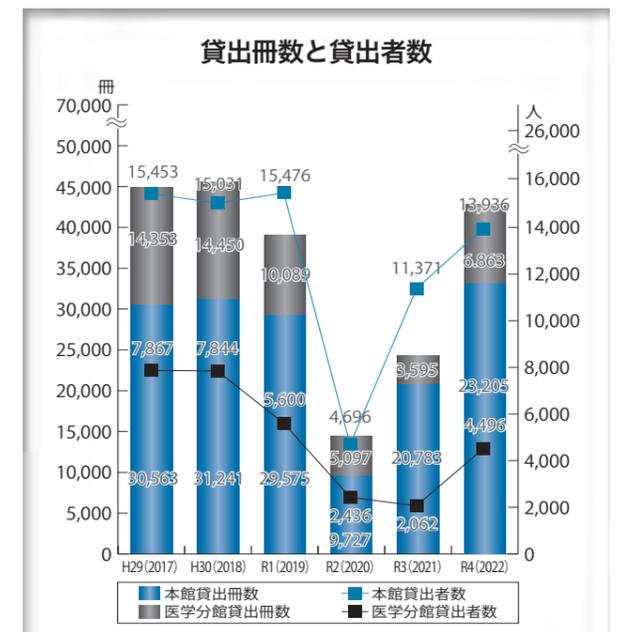
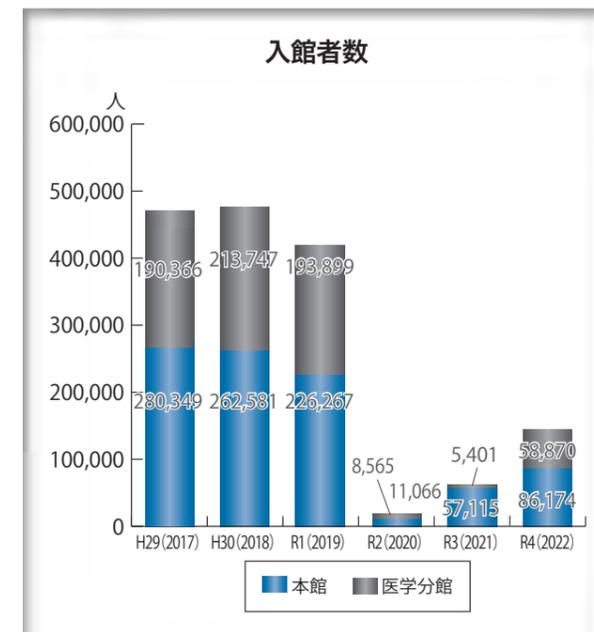
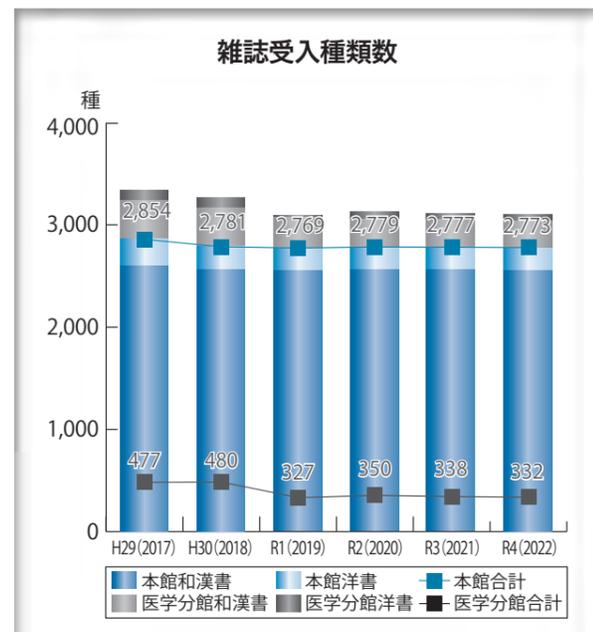
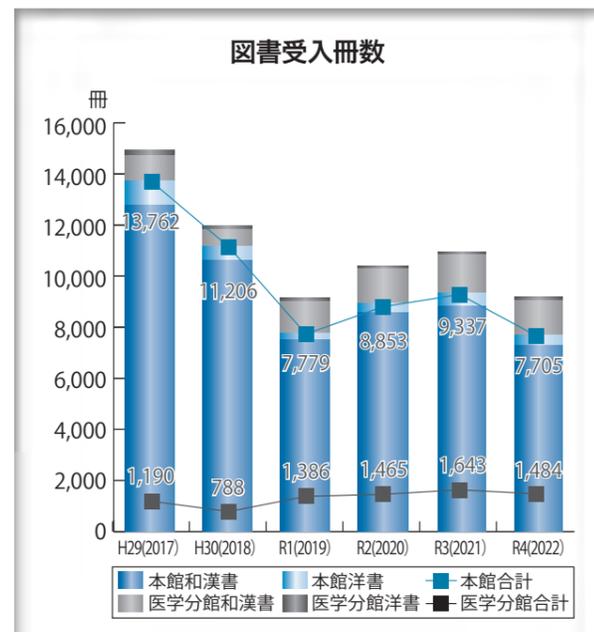
〈令和5(2023)年3月31日現在〉

基盤統計

	蔵書冊数 (冊)			雑誌所蔵種類数 (種)		
	和漢書	洋書	合計	和漢書	洋書	合計
本館	405,823	166,099	571,922	6,541	2,976	9,517
医学分館	66,730	41,975	108,705	1,244	1,119	2,363
合計	472,553	208,074	680,627	7,785	4,095	11,880

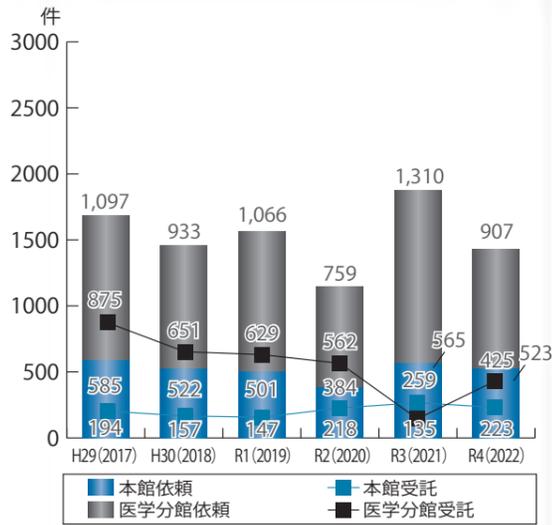
サービス統計

	開館日数 (令和4(2022)年度) (日)		利用対象者数 (令和4(2022)年5月1日現在) (人)	
	本館	医学分館	合計	
平日	238	226	学生	6,498
土・日・祝日	107	105	教職員	2,071
合計	345	331	合計	8,569

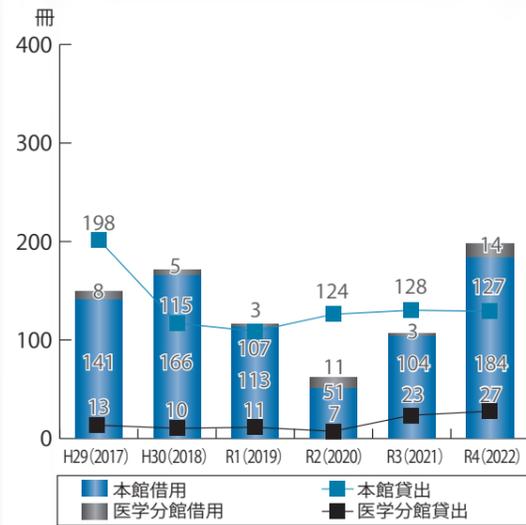


※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学外者の利用を制限してきたが、令和4年11月21日より、本館において利用を再開、医学分館においては、医療従事者に限定して利用を再開した。

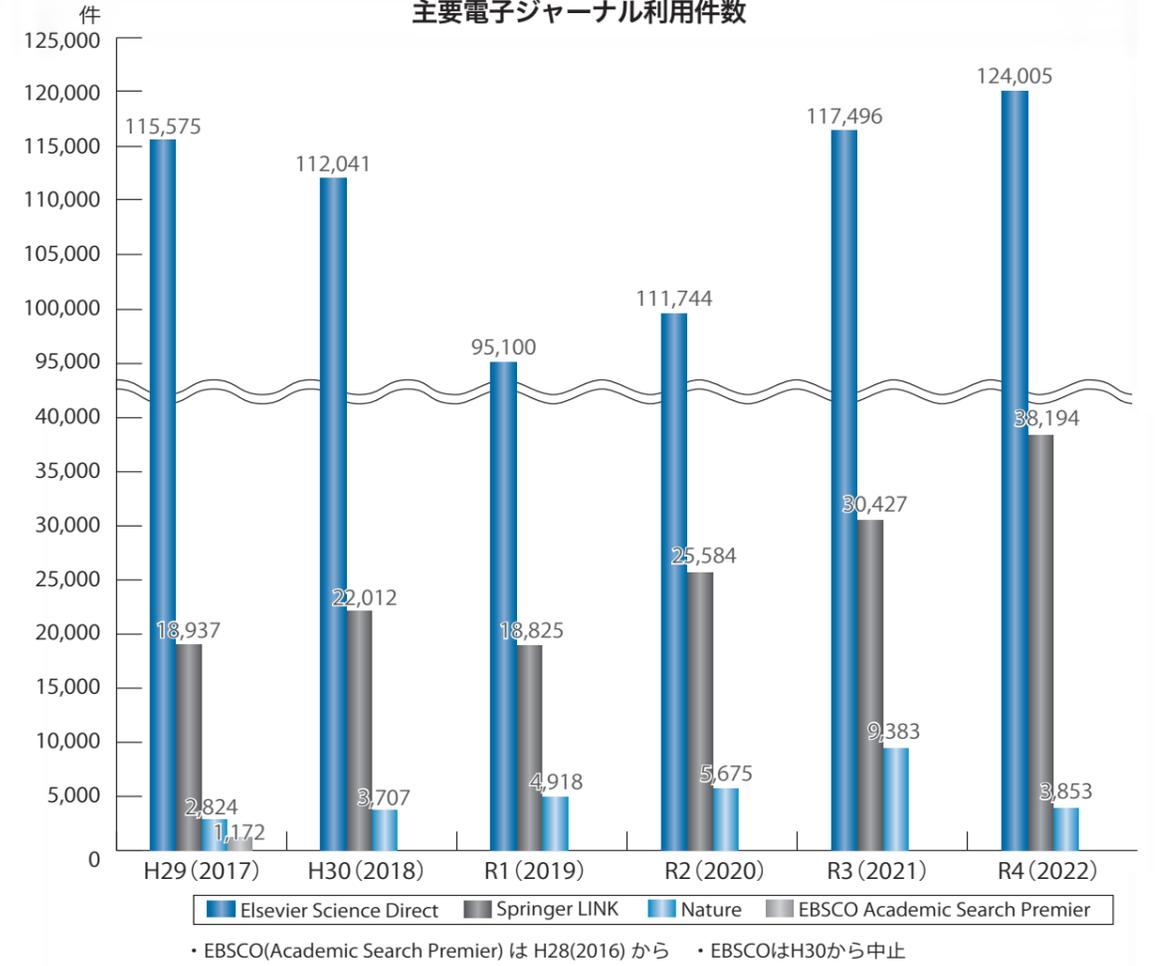
文献複製件数



相互貸借冊数



主要電子ジャーナル利用件数



図書館オリエンテーション・講習会

開催場所	対象	回数	人数	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
				参加総数	1,135	1,069	1,193	10	10
本館	新入生向け	回数	人数	27	29	33	0	0	0
		回数	人数	13	5	7	1	1	1
	学部生・院生向け	回数	人数	207	54	170	10	10	10
		回数	人数	172	242	311	4	63	163
	教職員向け	回数	人数	1	0	0	0	0	1
		回数	人数	27	0	0	0	0	60
医学分館	新入生向け	回数	人数	2	2	2	0	0	2
		回数	人数	3	3	4	1	2	3
医学分館	学部生・院生向け	回数	人数	172	242	311	4	63	163
		回数	人数	1	0	0	0	0	1
医学分館	教職員向け	回数	人数	1	0	0	0	0	1
		回数	人数	27	0	0	0	0	60
本館	参加総数			1,135	1,069	1,193	10	10	10
医学分館	参加総数			365	409	477	4	63	393
参加総数(合計)				1,500	1,478	1,670	14	63	403

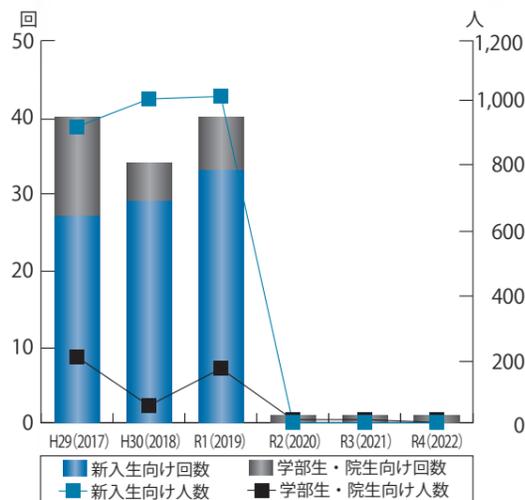
文献データベース利用件数

データベース	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
Scopus	10,413 (33,136)	10,506 (28,737)	(26,458)	(25,331)	(26,781)	(23,018)
朝日新聞 クロスサーチ	1,035	1,720	1,239	412	580	434
ヨミダス歴史館	(918)	(3,287)	(2,184)	(970)	(1,574)	(1,970)
日経テレコン	(285,718)	(201,356)	(78,241)	(53,382)	(83,587)	(69,987)
日経BP記事検索	(5,624)	(3,931)	(2,393)	(1,766)	(1,727)	(1,235)
ジャパンレッジ	791 (4,760)	626 (3,710)	549 (2,966)	807 (5,386)	1,436 (9,111)	585 (3,838)
Academic OneFile						648
UpToDate	(4,416)	(3,414)	(3,355)	(3,333)	(2,869)	(3,790)
メディカルオンライン	(25,159)	(29,208)	(27,374)	(23,345)	(23,070)	(26,905)
医中誌Web	(51,640)	(61,528)	(63,226)	(36,104)	(47,114)	(43,274)

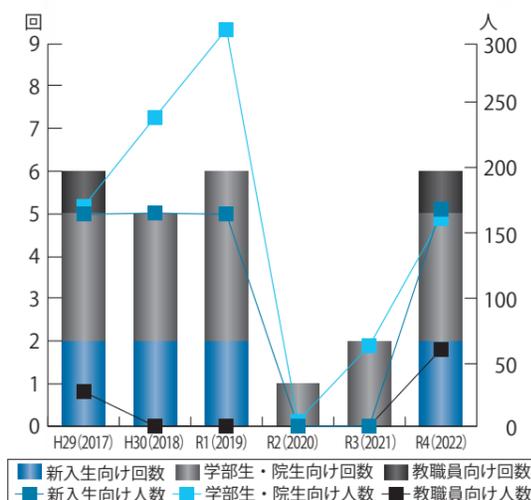
Academic OneFile R4(2022)から導入

*括弧内は検索回数または本文利用回数

本館



医学分館



新型コロナウイルス感染対策のため、令和2・3年度は、対面による新入生向けオリエンテーションは実施せず、図書館案内の動画等をホームページ上で配信することで代えた。

歴代館長・副館長

歴代館長(統合後) ※平成15年10月1日 佐賀医科大学と統合

氏名	所属部局	期間	年	月
宮島 敬一	経済学部	平15.10.1～平16.3.31	0	6
小倉 幸雄	理工学部	平16.4.1～平18.3.31	2	0
高崎 洋三	医学部	平18.4.1～平20.3.31	2	0
相澤 照明	文化教育学部	平20.4.1～平22.3.31	2	0
稲岡 司	農学部	平22.4.1～平26.3.31	4	0
富田 義典	経済学部	平26.4.1～平28.3.31	2	0
米山 博志	工学系研究科	平28.4.1～平30.3.31	2	0
山崎 功	芸術地域デザイン学部	平30.4.1～令2.3.31	2	0
大島 一里	農学部	令2.4.1～令3.3.31	1	0
石丸 幹二	農学部	令3.4.1～令4.3.31	1	0
中里 理子	教育学部	令4.4.1～		

歴代副館長

氏名	所属部局	期間	年	月
高崎 洋三	医学部	平15.10.1～平18.3.31	2	6
武田 淳	農学部	平18.4.1～平20.3.31	2	0
徳永 蔵	医学部	平20.4.1～平22.3.31	2	0
吉田 裕樹	医学部	平22.4.1～平24.3.31	2	0
田中恵太郎	医学部	平24.4.1～平26.3.31	2	0
熊本 栄一	医学部	平26.4.1～平28.3.31	2	0
宮本比呂志	医学部	平28.4.1～平30.3.31	2	0
池田 義孝	医学部	平30.4.1～令2.3.31	2	0
城戸 瑞穂	医学部	令2.4.1～令4.3.31	2	0
市場 正良	医学部	令4.4.1～		

図書館の運営体制

附属図書館長・副館長

令和5年4月1日現在

附属図書館長 中里 理子 (教育学部教授)
 附属図書館副館長 市場 正良 (医学部教授)

附属図書館運営委員会

令和5年4月1日現在

委員長 中里 理子 (附属図書館長)
 委員 市場 正良 (附属図書館副館長)
 堀 良彰 (総合情報基盤センター長)
 中村 博和 (全学教育機構副機構長)
 吉岡 剛彦 (教育学部 教授)
 湯之原 淳 (芸術地域デザイン学部 准教授)
 吉田 友紀 (経済学部 准教授)
 村久保 雅孝 (医学部 准教授)
 只木 進一 (理工学部 教授)
 石丸 幹二 (農学部 教授)
 秋保 聡 (学術研究部長)

附属図書館医学分館運営委員会

令和5年4月1日現在

委員長 市場 正良 (附属図書館副館長)
 委員 村久保 雅孝 (医学部 准教授)
 藤野 成美 (医学部 教授)
 井原 秀之 (医学部 准教授)
 松本 明子 (医学部 准教授)

館内マップ、各係の紹介

◆総務主担当

図書館運営のための総務全般を担当しています。

【業務内容】

- (1) 各種会議及び諸行事
- (2) 図書館所管の規程等の整備及び法人文書管理
- (3) 物品、資産の管理及び建物、設備の維持管理
- (4) 調査、統計、広報及び諸報告
- (5) 図書館の広報
- (6) 予算の管理並びに決算
- (7) 勤怠管理

◆図書管理主担当

図書や雑誌が館内に配架されるまでを担当しています。また、電子ジャーナルも契約しています。

【業務内容】

- (1) 図書館資料(電子資料を含む)の収集、選択及び受入
- (2) 図書の除籍、除却
- (3) 図書館資料(電子資料を含む)の目録編成、管理
- (4) 図書館資料費の予算管理

◆学術情報主担当

図書館の利用全般を担当しています。カウンターなどで利用者みなさんと接する機会の多いスタッフです。

【業務内容】

- (1) 図書館資料(電子資料を含む)の閲覧、貸出及び管理、保全
- (2) 閲覧室及び書庫等の管理及び保全
- (3) 図書館及び図書館資料(電子資料を含む)の利用支援
- (4) 文献複写、図書の相互利用
- (5) 機関リポジトリの構築、運用
- (6) 貴重書の保存、活用
- (7) 図書館システムの保守、管理及び運用

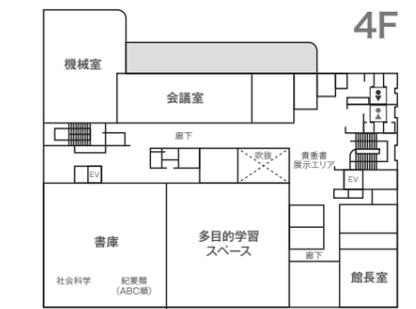
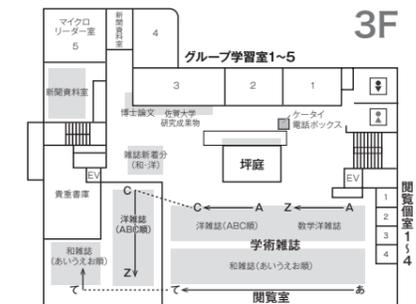
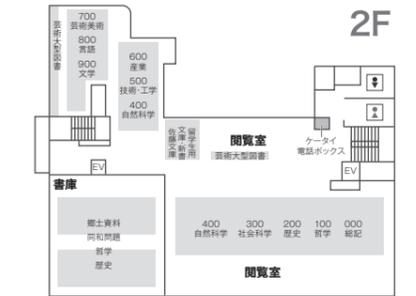
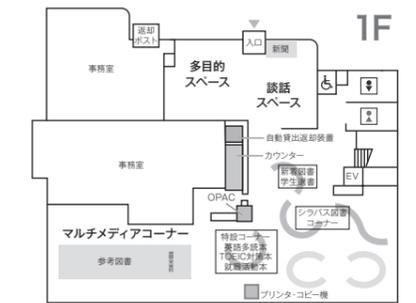
◆医学分館主担当

医学部にある医学分館を担当しています。

【業務内容】

- (1) 図書館資料(電子資料を含む)の閲覧、貸出及び管理、保全
- (2) 閲覧室及び書庫等の管理及び保全
- (3) 図書館及び図書館資料(電子資料を含む)の利用支援
- (4) 文献複写、図書の相互利用
- (5) 図書館資料(電子資料を含む)の収集、選択及び受入
- (6) 図書館資料(電子資料を含む)の目録編成、管理

本館



医学分館



図書館日誌(行事・会議・研修等)

令和4年

- 4月15日 令和4年度九州地区国立大学図書館協会総会(福岡教育大学 オンライン)
- 4月21日 附属図書館医学分館改修竣工記念式典(リニューアルオープン)
- 5月25日 令和4年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会(西日本工業大学 書面会議)
- 5月27日 令和4年度第1回附属図書館運営委員会(オンライン)
- 6月23日 令和4年度第69回国立大学図書館協会総会(オンライン)
- 6月23日 令和4年度第2回附属図書館運営委員会(書面会議)
- 6月24日 令和4年度佐賀県立図書館主催研修会(著作権研修 オンライン)
- 6月30日 令和4年度第73回九州地区大学図書館協議会総会(福岡教育大学 書面会議)
- 7月26日 令和4年度佐賀大学係長研修
～27日
- 7月28日 令和4年度第1回医学分館運営委員会(書面会議)
- 7月29日 令和4年度第3回附属図書館運営委員会(書面会議)
- 9月14日 令和4年度九州地区国立大学法人等係長研修(九州大学)
～16日
- 9月28日 令和4年度第1回附属図書館評価専門委員会(オンライン)
- 9月28日 中学生の職場体験学習
～29日
- 9月30日 令和4年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(久留米工業高等専門学校 オンライン)
- 10月3日 附属図書館本館4階多目的学習スペースオープン
附属図書館本館4階貴重書展示スタート
- 10月7日 令和4年度第4回附属図書館運営委員会(書面会議)
- 10月12日 令和4年度九州地区国立大学法人等テーマ別研修(オンライン)
～14日
- 10月14日 令和4年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議(福岡教育大学 オンライン)

- 10月27日 図書館月間2022
～11月30日 (附属図書館貴重書コレクション小城鍋島文庫展及びクイズで学べる図書館脱出ゲーム)
- 11月10日 令和4年度第5回附属図書館運営委員会(書面会議)
- 11月17日 令和4年度九州地区医学図書館員セミナー(オンライン)
- 11月18日 令和4年度第2回医学分館運営委員会(書面会議)
- 11月28日 令和4年度佐賀県大学図書館協議会総会(書面会議)
- 12月1日 令和4年度九州地区国立大学附属図書館館長(部・課長)会議(オンライン)
- 12月8日 令和4年度国立大学図書館協会地区協会助成事業
大学図書館におけるSNS活用と情報発信に関するセミナー(オンライン)
- 12月9日 図書館ポイントカードおよび学生Web選書
～2月28日
- 12月14日 令和4年度第6回附属図書館運営委員会(書面会議)

令和5年

- 2月2日 令和4年度第7回附属図書館運営委員会(オンライン)
- 2月7日 令和4年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会(オンライン)
- 2月8日 令和4年度第3回司書のつどい(ホテルニューオータニ佐賀 対面)
- 2月27日 令和4年度本庄地区総合防災訓練
- 3月16日 令和4年度第3回附属図書館医学分館運営委員会(書面会議)
- 3月20日 令和4年度第8回附属図書館運営委員会(書面会議)

貴重書紹介

伝柴田花守筆「楠公像」

解説

佐賀師範学校や小城高等学校、筑紫女学園短期大学等に勤めた国文学者市場直次郎(1904～1996)の収集資料を購入したものが市場直次郎コレクションである。和本のほか色紙、短冊に掛幅、それに扇面など、近世以後の和漢の書画類がその主要な構成要素になる。

そこから今回紹介するのは、『太平記』のヒーロー、楠木正成(1294～1336)を描いた絹本の掛幅で、縦91.5cm、横57.0cm。朱で「花守之印」が押されている(図1)。作者とされる柴田花守(1809～1890)は、小城出身で、絵師として藩に仕えた。富士信仰グループ不二道の禄行三志(1766～1841)の弟子でもあり、維新後はその教団を改組して教派神道実行教の初代管長となった。端唄「春雨」の作詞者とも目され、地元小城での「春雨まつり」の歴史は、60年を越えた。

幕末の佐賀本藩で楠木正成を祀る義祭同盟が結成され、後に活躍する多くの志士が参加したことは知られているが、小城でも花守が弘化年間に彼の像を天満神社に置き、安政年間には今の須賀神社の境内に移したという。こうした19世紀佐賀の楠公崇敬の流れの中で本作も描かれたのだろう。「野口和三郎」と書かれた貼紙があり、当センターの小城藩日記データベースを利用すると、同名の人物が19世紀の小城鍋島家に奉公していたことを確認できる。旧蔵者(の一族)だろうか。

ところで同様の構図の楠木正成像は、幕末期の佐賀藩主鍋島直正(1815～1871)の側近だった古川松根(1813～1871)も描いており(図2)、しかもこちらは、やはり『太平記』のヒーローである児島高德の図(図3)との対幅になっている。公益財団法人鍋島報効会所蔵のこちらの作品(「楠左中将・児島高德肖像」)の箱書きは、絵師の栗田口隆光が元弘2年(1332)に描き、備前国(現岡山県)の甲本家が秘蔵してきたものを、嘉永5年12月(1853)に京都室町で岡本克壽が写し、それを安政3年5月(1856)に松根が写したものだとする。そして元は、義祭同盟に関わった佐賀藩の執政鍋島茂真(1813～1866)を輩出した須古鍋島家の所蔵品だったという。

柴田花守も藩外経験は多く、本作と松根の模写品との関係は分からない。ただ、白い狩袴あるいは指貫の内側に履く下袴が、松根筆のほうでは紅色なのに対して、花守筆のほうでは白色で、上に履いているものと区別できない。もし衣文道に通じた松根の色遣いが正しいとすれば、花守の作画は、原図の色遣いを確認できない状況で進められたのかもしれない。

(地域学歴史文化研究センター准教授 三ツ松誠)

[参考]井上敏幸編『市場直次郎コレクション目録』(佐賀大学附属図書館・地域学歴史文化研究センター、2007) / 『幕末佐賀の家老たち』(公益財団法人鍋島報効会、2016) / 三ツ松誠編『幕末地方歌壇の研究——佐賀藩の場合——』(大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館、2021) / 『小城春雨まつり60年の歩み 端唄「春雨」探訪～小城藩士・柴田花守とその時代～』(佐賀新聞社、2023)



図3 児島高德肖像



図2 楠左中将肖像

(公益財団法人鍋島報効会所蔵)



図1 楠公像

(本館所蔵)